2 月報(2023 年) 萌 カトリック福山教会

福山教会活動テーマ：
「喜びをもっていのちをもたらす福音を社会に伝えよう」

〒720-0808　福山市昭和町 7―26
☎【084】923-0614　FAX【084】923-0615
e-mail ：fuku-ch@ktd.biglobe.ne.jp

【四旬節に洗礼志願者とともに典礼にあずかりましょう】

田中　美緒子

主の降誕や新年のお祝いをした記憶も新しい私たちですが、灰の水曜日（2 月 22 日）から四旬節に入ります。私は最近求道者の入門講座に同席させていただいている関係で、最終的な受洗準備や受洗をするのに勧められている「時」があることを改めて知りましたので、ここにご紹介します。

① 洗礼準備期は“清めと照らし”の時期であって、典礼暦年の中では四旬節が適しています。また受洗の日を復活徹夜祭に定めることにより、すべての準備が主の過越の聖なる三日間に向けられているということになります。

② 四旬節の典礼は、洗礼の準備と記念、そして回心について行われるので、すでに洗礼を受けている私たちキリスト者の共同体にとっても、洗礼の恵みを新たにする期間となります。

下の図は、洗礼志願者が求道期前の段階から、洗礼を受け、そして導きを受ける段階までの流れを示したものです。求道期、洗礼準備期、そして入信（洗礼、聖体）の秘跡直後の期間に分けることができ、それぞれ入門式、洗礼志願式、入信の秘跡の祭儀が教会の典礼として行われます。

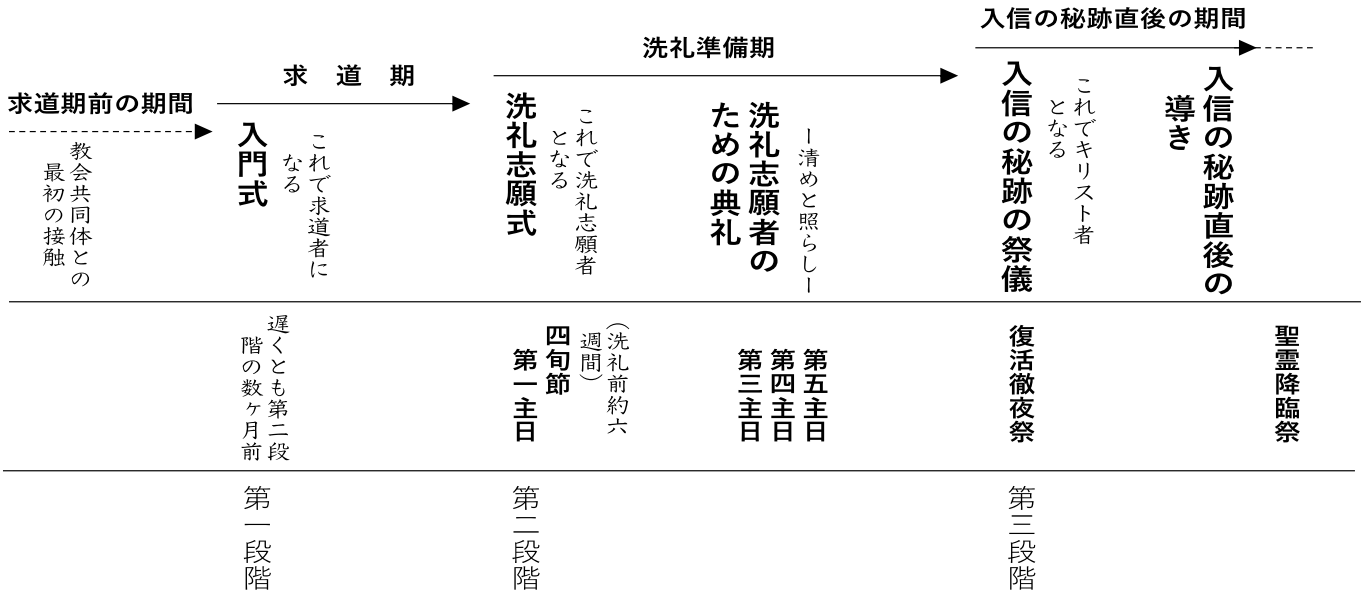

図　入信（洗礼、聖体）の秘跡までの流れ

次の表は四旬節の主日のミサ中に行われる洗礼志願者のための典礼を示します。説教の後に、内容の欄に示された共同祈願や祈りなどが行われます。

表　四旬節の主日のミサにおける洗礼志願者関連の典礼

暦	典　礼	内　容
四旬節第一主日	（説教の後） 洗礼志願式	・推薦と確認 ・選びの表明 ・信条の授与 ・洗礼志願者のための共同祈願（第一主日） ・解放を求める祈り（第一主日）と塗油
四旬節第二主日		
四旬節第三主日	（説教の後） 洗礼志願者のための典礼 ～清めと照らし～	・洗礼志願者のための共同祈願（第三主日） ・解放を求める祈り（第三主日）
四旬節第四主日	（説教の後） 洗礼志願者のための典礼 ～清めと照らし～	・洗礼志願者のための共同祈願（第四主日） ・解放を求める祈り（第四主日）
四旬節第五主日	（説教の後） 洗礼志願者のための典礼 ～清めと照らし～	・洗礼志願者のための共同祈願（第五主日） ・解放を求める祈り（第五主日）

こうして志願者も私たちキリスト者の共同体も、一緒に過越の神秘にあずかる準備をしていくことになります。

【み言葉の分かち合い】　　**ブラザー阿部眞理**

ヨセフ阿部眞理修道士（あべ・しんり＝聖パウロ修道会会員）は、2023 年 1 月 16 日（月）午前 6 時、膵臓がんのため福島市のご自宅で帰天されました。享年 64 歳。

いつも元気で親しみやすい笑顔で年に 2 回、夏と冬に沢山の本と聖品を持って来られていたブラザー阿部。それが 1 年前にすい臓癌が発覚し、病魔と闘いながら修道院の院長としてのお仕事も継続されていました。あれこれとしなければならない事や心配事、そして今自分に出来る事など、毎日たくさんの問いかけをしながらの生活だったと思います。

ブラザー阿部の手作りロザリオ

昨年暮れにお会いした時に言われた言葉は『だんだんとシンプルになってくるね、自分が持っている物を削ぎ落していくとシンプルで軽くなるね！それで良いと思うよ』…でした。

「み言葉の分かち合い」は、そんな中でブラザーがひとりでも多くの人に伝えたい思いを綴られたものでした。

12 月 30 日　聖家族の祝日

『使徒パウロのコロサイの教会への手紙 3 章。』

今日は、この箇所を選びました。この 3 章の 12 節すべてを皆さん、本当にゆっくり味わってみてください。本当に、私の説明は入りません。それぞれが、この箇所で心に響く言葉を選び、今日 1 日実行してみてください。ちなみに、わたしは、この言葉を選びました。

「あなた方は神に選ばれ、聖なる者とされ、愛されているのですから。憐れみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に付けなさい」

わたしにとって、神さまに愛されているばかりで、何も神さまに、みなさんに、一つも返せない自分に反省することばかりです。

今からでも遅くありません。これからの長くはない人生、少しずつ神さまに、皆さんに返して行きたいです。皆さんは、どれを選びましたか？

今日は、聖家族の祝日です。私たち一人一人の心にヨセフさま、マリアさま、そしてイエスさまがお出でになり、豊かな愛で包んでくださいますように。

『苦しまなかったら』
もし　私が苦しまなかったら
神さまの愛を知らなかった
もし　多くの兄弟が苦しまなかったら
神さまの愛は伝えられなかった
もしも主なるイエス様が苦しまなかったら
神さまの愛はあらわれなかった
―水野源三詩集「私は私らしく生きる」より

世界で苦しむ人のために祈ります。そして、一日も早く世界の平和が訪れますように
新しい年が、主に祝福された年でありますように。
2023 年 1 月 1 日
〒555-0025 大阪市西淀川区姫里2－2－15
聖パウロ修道会 大阪修道院
阿部眞理

12 月 31 日　ヨハネによる福音書 1 章。

『はじめに言葉(みことば)があった。
言は神と共にあった。
言は、初めに神と共にあった。
万物は神によって成った。』

私たちの生き方は、このイエスの言葉、イエスの生き方にぶれてはいけません。「言葉」そのものである、神からぶれてはいけません。この言葉に倣い、イエスの姿を学び、ひらすら倣い生きていくこと、この道が私たちの支えです。

イエスから離れることで、私たちは、暗闇に迷ってしまいます。光を見失わず、光を求めて生きましょう。神さまの光をうけ、いつも人々に輝かせましょう。光は、輝きだけではなく、暖かさになります。光は神さまの愛です。新しい年、神さまの光と愛に包まれて、豊かな新しい年を迎えることが出来ますようにお祈りしています。

【オルガン演奏会 J.S.バッハ「ドイツ・オルガン・ミサ」】　　仲谷　沙弥香

オルガン演奏会にて演奏させていただく際に、オルガニストは事前にとても大切な準備があります。それは音色を作るという作業です。今回は前編後編に分けた演奏会だったので、それぞれ 3 回ずつ練習時間をいただきました。教会で初めての練習の際にはどんな音と出逢えるのか、わくわくすると同時に恐れも感じながらオルガンと向き合います。もちろん、教会での練習の前にあらかじめどのような音にするかシュミレーションしてから臨みますが、それでも実際に音を出してみるとどうしてもバランスが取れないなど、予想外のことも起こります。

しかし、色々試すうちに神様から教えていただいたとしか思えないような、本当に奇跡的な出会いをすることがあります。

後編では、15 曲目の主の祈りの音は優しいだけでなく芯のある音を使いたいとずっと考えていました。しかし実際音を出してみると、右手はフルートの音にしないと左手とバランスが取れず、半ば妥協の形でフルートの音を選んでいました。しかし、何かがしっくりしないという思いを抱えながら 3 回目の練習日になり、練習時間も残り 20 分を切ったという時に、左手を 1 オクターブ低く弾くとバランスが取れるのではとアイデアが降りてきて、弾いてみるともうこれしかない！という音でした。次の日が演奏会という日に左手を弾く場所を変えるというのは挑戦的すぎるかと思いもありましたが、主の祈りはこの音でないといけない！という確信から当日ももちろんこの音で聴いていただきました。

このような音との出会いもオルガニストしか味わえないオルガンの魅力ですが、弾いている際もオルガンの息遣いを感じると、おこがましい話ではありますが、なんだか祈りが天に届いたような、天に梯子がかかったようなそのような感覚になり、私は仲介者に徹しオルガンに助けられながら演奏するという、現実とは思えないような感覚を味わいながら弾いています。オルガンのような巨大な楽器だから大変そうと思われがちですが、だからこそ全てを委ねられるように

なりたい、そして色々な曲を皆様にお届けしたいというのが今の思いです。より多くの人がこのオルガンの魅力を感じていただけますように。それが私の願いです。

今回の演奏会の企画をしてくださった野田茂生様、そしてこの演奏会を御了承くださった猪口神父様、練習の際など細かなお心くばりくださった星様、そして寒い中駐車場の整理をしくださった佐藤様、田中様、冨田様、大塚様、富山様、その他多くの皆様に支えられてこの度の演奏会を終えることができましたこと、この場をお借りしまして心より御礼申し上げます。
本当にありがとうございました。

【南相馬便り㊽】　　**援助マリア修道会南相馬修道院　北村令子**

修道院東方日の出

明けましておめでとうございます

たくさんのお恵み、皆様からのご支援をいただいた昨年一年間を感謝し今年もどうぞよろしくお願いいたします。

うさぎ年は、飛躍の年と言われます。世界も日本もみな、平和になって、本当の飛躍の年となりますように祈ります。卯（有）頂天にならず、神様の御心の頂点を目指して、地道に一日一日を跳躍の日々としていけますように、互いに助け合いなら、心配りをしながら、祈りながら邁進していきましょう。高齢になったので、あまり飛び跳ねないように気をつけます。どうぞよろしくお願いいたします。

エキュメニカルなかかわり昨年の 4 月から小高にある日本基督教団の小高伝道所に、東京から飯島信（まこと）牧師が単身で赴任して来られました。1 年前から小高には時々礼拝のために通っておられたのですが、2022 年 4 月からは正式に赴任され、小高と隣町の浪江の教会を兼任されるようになりました。

小高教会は明治 35 年ごろに開設され、120 周年を迎えるとのことです。日本国憲法の創案者の一人である鈴木安蔵さんの両親は熱心な信徒で、安蔵さんが受洗しておられたかどうかわからないのですが、この教会に通っておられ、憲法の人権、信仰の自由などの精神は、この教会で培われたと思われます。

震災後、2019 年ごろ再開された礼拝には、小高教会所属の帰還された信者さんが、たった一人のため、カリタスからも礼拝の応援参加をしていましたが、コロナで応援参加は立ち消えていました。

飯島牧師さんが来られて、月に 2 回ずつ、小高と浪江で交互に礼拝が行われるようになり、またカリタスからの応援参加が再開しました。浪江伝道所は、周囲が身の丈ほどある雑草に埋もれたような地域にあって、再開のために飯島牧師さんと日基教団の信徒の方々が草刈りや教会堂の掃除などの奉仕をされて、入ることが出来るようになりました。この教会の建物の裏にある牧師館は、まだ震災の時のまま時が止まった状態です。昨年の 9 月から礼拝を再開され、私は、10 月 16 日の日曜日午後、初めて浪江のプロテスタント教会の礼拝に参加させていただきました。　　東京から来られた牧師夫妻と原町の牧師さん、オルガニストの方、カリタスの 2 人（私と福田さん）と飯島牧師さんの 6 人で礼拝を捧げました。

まだ誰も近所に住んでいなくて、周りは荒れ果てた家屋、草ぼうぼうの土地の中で、教派を越えてキリストを信じる者の小さな集いで、神様を賛美・礼拝するこの神聖なひと時を、父なる神のみ心はどんな思いかと想像し感動しました。まだ帰宅困難区域が残る浪江町の人々のため、彼らの苦労、彼らの思いを心に留めて、父なる神のみ心にお捧げして、彼らの心に安らぎをと祈ります。

11 月 20 日の日曜日に、また私と福田さんとで 2 度目の参加をしました。　この時は 5 人の参加でしたが、礼拝所の脇にある小さな日本間で、震災後初めての茶話会ができました。

飯島牧師さんが、「昨日初めてガスが通りました。今日のコーヒーの湯沸かしは 2007 年以後初めて使われました」と。浪江教会は、震災以前に 2007 年で閉鎖され小高教会と合併したとのことです。飯島牧師、仙台からの牧師夫妻と、私と福田さん（写真の撮影者）の 5 人でした。この部屋の掲示板に、2007 年のカレンダーと常磐線の時刻表がそのまま貼ってありました。時の止まった部屋で、コーヒーをいただきながら、暖かい雰囲気で団らんし、協力できることは、現代の教会の中で、日本社会の中で、キリストを証ししていく一歩、キリストが「みなが一つであるように」と願っておられるその祈りを実現することだと思います。

震災後原町のカトリック教会もたった二人の信徒の方が、東京や仙台の信徒の方達のミサへの参加の協力をいただいて、見事に建て直して来られたことを伺って、この浪江の教会も多くの方々の協力で復活できると信じています。

小高教会は教会付属の幼稚園を併設していましたが、震災・原発事故のため全住民の強制避難によって廃園となりました。小高には幼稚園はこの教会の幼稚園しかなかったので、小高の住人の多くが卒園生です。そこで、飯島先生はこの卒園生の有志を募って、月に１回、小高在住の方の「小高への想いを語る集い」という企画をされ、小高の歴史・伝統、そして小高の暮らしなどのお話を語って頂くことになりました。私たちの小高への思いを深めていただく集いとなるでしょう。また少しずつ分かち合っていきたいと思います。

新しい年に、

皆様お一人お一人の上に

神様の豊かな祝福と恵み、

幸せな日々をと祈っています。

初日の出

南相馬便り１月号　追申

去年、2022 年の 3 月 16 日の大地震で、小高神社の大鳥居が倒れた事は、4 月号で書きましたので記憶にあると思いますが、7 月の野馬追行事の時も鳥居なしのお祭りでした。いつ再建されるのだろうと、散歩の度に物足りない思いをしていました。宗教が違うと言っても、やはり気にかかるものです。１２月の初め頃のある朝、突然、鳥居が一番上の横石無しのが建っていました。（毎朝 5 時 45 分ごろ通るので暗くて写真が取れませんでした）

年末押し迫って、金のしめ縄に、小高神社という額がかかって、のぼりが立って、完成しました。31 日に昼間に散歩をして、写真を撮って来ました。初詣のために駐車場や出店の準備がしてありました。やっと元の姿に戻って安心しました。初詣には多くの方が、家内安全、健康で幸せな日々をとお祈りされるでしょう。世界が平和になるようにとも！！

２・３月の行事予定

２月		３月	
2(木)	主の奉献	5(日)	四旬節黙想会
5(日)	福山市内巡礼	20(日)	聖ヨセフ　日曜学校終業式
22(水)	灰の水曜日(大斎・小斎) ミサ…10 時・19 時	25(土)	神のお告げ
26(日)	四旬節第 1 主日		

【編集後記】

先月末、週報に紹介されていた「みんなの家どんどん」を訪ねてみた。余剰食料品を集め生活困窮者に分けるという活動をしておられる。お米やラーメン、パン、プリンもあった。トイレットペーパーもいただいた。そのまま暮らしに困っている友に届けた。こういう活動をしている団体を他にも知っている。もうじき四旬節。(S・N)

2 月 22 日(水)から四旬節が始まります